

第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和6年2月14日（水） 午後3時～4時
会 場：浜松市役所本庁8階 第5委員会室
出席委員：藤井尚子会長、石田博久委員、金子哲也委員、倉橋千弘委員、
鈴木ヒエン委員、田中佐和子委員、村松千香子委員、吉林久委員
欠席委員：松井章子副会長、横田みどり委員
事務局：新谷直幸市民部長、河合多恵子UD・男女共同参画課長、
鈴木大祐課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、伊藤茜、伊藤佳奈
傍聴者：なし
会議録作成者：UD・男女共同参画課 伊藤佳奈
記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - ・令和5年度 主要事業実績について（経過報告）
- 4 その他
- 5 閉 会

《配付資料》

- ・資料1：令和5年度 主要事業実績（経過報告）

《会議の経過》

1 開会

（事務局）

令和5年度第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。

本日は、松井副会長、横田委員が都合により欠席である。

2 会長あいさつ

藤井会長挨拶

3 議事

(事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また、会議録の作成については前回同様の対応とする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長が務めるとされているため会長にお願いする。

(1) 令和5年度主要事業実績について(経過報告)

事務局より

(資料1) 令和5年度主要事業実績(経過報告)について説明

(藤井会長)

事務局からの説明について、意見、質問があればお願いしたい。

(吉林委員)

UD推進のための環境づくりとして、UDトークを導入しているが、導入当初より機能や精度は向上しているか、また導入している58台の端末は、どこに配備されているか。

(事務局)

導入当初の翻訳機能は10言語程度であった。現在は150以上の言語に対応している。マスクやアクリル板越しでの会話により、声が聞き取りづらくなる対応として、音声の感度を高めるマイクを併用することで音声認識の精度が高められている。

端末導入課は、各区役所・各行政センターにある社会福祉課、夜間救急室、児童相談所、精神保健福祉センター、図書館(中央図書館、天竜図書館、春野図書館)、議会事務局、教育委員会、広聴広報課などである。

(吉林委員)

今後もUDトーク導入端末台数を増加させていくのか。

(事務局)

当課で増加していくのではなく、各課主体で端末の導入が進められている。ある程度導入されたことで、令和5年度は横ばいの状況である。

(吉林委員)

UDトークでの意思疎通における問題や苦情はないか。

(事務局)

UDトークは使用を繰り返すことで機器自身が適切に処理する学習機能がある。すべてが正確に文字化・翻訳できているわけではないが、現在のところ不満や苦情の声は聞いていない。しかしながら、現在は様々なものが開発されてきており、窓口を訪れる市民も、自身が使いやすいアプリを携帯端末にダウンロードし利用している状況である。当課としても、UDトークを今後もずっと使用していくということではなく、よりよいものを調査・検討していく必要があると考えている。

(吉林委員)

UDトークに拘らず、よりよいツールを提供できるとよい。窓口や相談に来られた市民の意思が正確に伝わることで、円滑にコミュニケーションできることが重要である。

(金子委員)

UDトークによる文字化や翻訳は大事であるが、やさしい日本語で話すことが重要であるため、研修で広めてほしい。

(田中委員)

6 ページのUD提案事業の講演会について、専門家による講義はとても重要であると思うが、定員が少ないと感じる。発達障害や不登校については教育現場で課題となっており、会場参加者だけではなく、Zoom などオンライン配信を行うことで、多くの市民が視聴できるとよい。

(事務局)

当事業は市民団体からの提案によって実施するもので、今回は新たな視点で提案していただき採択した。この団体は初めてUD提案事業を実施することもあり、団体が運営できる範囲として当初定員 40 名で実施することが提案されたが、反響が大きかったことから、定員を 60 名まで増加していただいた。

(田中委員)

今回、市民団体から提案があったとのことであるが、他にも実施したいとい

う提案を受けることがあるのか。例えば、性の多様性についても提案事業で広く周知できるとよい。

(事務局)

UD提案事業は、ユニバーサルデザインと男女共同参画の観点からそれぞれテーマを設定して募集を行い、市民団体に提案していただいている。

(村松委員)

市民団体が30万円以内で、この規模の内容を実施することは予算的にとても厳しいと思う。オンライン配信も実施することとなると、さらに団体側の負担が大きくなると思う。

提案内容によっては、UD・男女共同参画課、子育て支援課、教育委員会などの各部署が横断的に関わるような事業として実施してはどうか。市民団体が企画し、反響の大きな事業は単発で終わらせるのではなく、継続して実施できるようフォローしてほしい。

(吉林委員)

3ページのUD学習支援ガイド養成講座で「日常生活の中でUDに気付く視点」、ユニバーサルサービス研修で「アンコンシャスバイアス～無意識の偏見を考える」と記載あるように、私も家庭での発言を家族から指摘され、気付かされた経験がある。これまでの人生で培ってきたことを改善することはとても大変であるが、これからの時代は少しずつでも変えていかなければならないと思う。研修テーマが大変よいと感じた。

(金子委員)

2ページのUD学習支援ガイド養成事業について、市民リーダーが活躍できる場面をどう考えているか。また、今年度は新規ガイドとして2名登録したが、一方で辞退された方も2名いるとのことであるが、今後の展望を聞かせてほしい。

(事務局)

辞退者2名について、これまで活動していただいていたが、仕事が変わりガイドとしての活動が継続できなくなったとのことで辞退をも申し出られた。

活躍できる場面としては、主にアクト通りUD施設見学においてガイドとしてUDを説明していただくほか、当課事業として、6ページの多様性理解啓発講演会にもスタッフとして参加し、運営に協力していただいた。

展望としては、UD学習支援ガイドの登録までいかなくても、積極的にUDを実践できる市民を増加させていきたいと考える。

(藤井会長)

地域においてUDを広めていくために必要な市民リーダーを増加させることは大事なことであるが、市民がUDを学ぶことで新しい気付きを得て、こういったUDが必要ではないかと議論できたり、無意識の偏見などについて市民が中心となって議論したりするようなチーム（団体）が生まれるようになるとよい。

Border Freeの活動について、オンライン配信することが大変であれば、事業を情報発信できるようなレポートをホームページに掲載してもよいのではないか。

UD提案事業では、市が設定したテーマで募集することはよいと思うが、市が設定したテーマ以外も大事にしてほしい。そうすることで新たな視点での事業が実施できると思うので、検討していただきたい。

(田中委員)

UD学習支援ガイド同士の交流や市との意見交換ができる機会を設定したり、ガイドとして活動する中での困りごとなどを把握したりしているか。

(事務局)

UD学習支援ガイド養成講座は新規ガイドを養成するための講座であるが、現役ガイドのスキルアップを目指した講座でもある。講座の中で反省点や改善点などについての意見交換を行っている。

(藤井会長)

本件について承認する。

4 その他

委員挨拶

市民部長挨拶

5 閉会